

インターバンクの声（2016年5月17日）

比較的穏やかな相場だった東京市場の後、週明けの海外市場の円相場も波乱なく108円台後半での取引時間が長く続き、ニューヨーク市場の後半になって109円台に乗せて来た。個人的には週末に発表されていた中国の鉱工業生産や小売売上などの指標悪化に欧米市場が反応して来るのではと心配したが、昨日は金曜日の米小売売上高を中心に米経済指標が堅調だったことを好感する流れが強かったようだ。もっとも昨日の海外市場は、昨年11月以来の高値を更新してきた原油価格の上昇や朝から買われ始めたニューヨーク・ダウが終日堅調だったことで、安全通貨の円を買う必要がない条件が揃っていた。20-21日に開催される「G7仙台財務相・中央銀行総裁会議」まで模様眺めの相場が続くような気もするが、一応今晚以降に相次いで発表される米国の経済指標や、ゴールデン・ウィーク中から500ポイントほど下落していた豪ドルが反応しそうな豪RBA議事要旨や木曜日の雇用統計には要注意だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。